

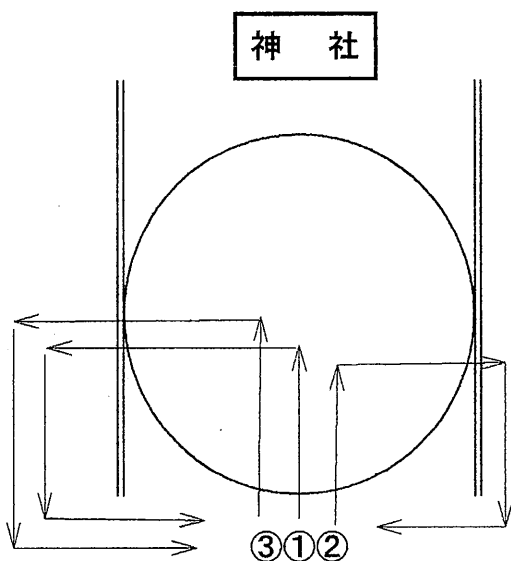
茅^ちの輪^わくぐ^くりの神^{しん}事^じについて

この神事には次のような昔ばなしがつたえられています。
むかしむかし、スサノオの神様が南の方へ旅をされておられました。なにかも歩いておられました。ひどくつかれて、服もボロボロになり、大変おいたところ、ちょうど近くにすいぶん大きくりっぱな家とすいぶん小さな家をたずねました。すると中から巨旦将来へこたらしい姿をみるなり云う人が出てきました。神様とは知らず、みすばらしい姿をみるなり「私は今忙しい。近くにお兄さんの家があるからあっちへいってください。」というなり戸をバタンと閉めてしまいました。しかたなく神様は、もう一つの小さな家をたずねました。すると中から蘇民将来へそみんしように「い」という人が出てきて、にこやかに中にいれてくれました。貧乏でそまつなもののばかりでしたが、いっしょけんめいもてなしてくれ、次の日にはきもちよく神様を見送ってくれました。

何年かたったある日、再び神様が「蘇民将来」の家をたずねてこられ、「あのときは大変お世話になりました。わたしは、スサノオの神です。お世話になったお礼にまいりました。近い内に悪い病気が流行するの、『かや』で輪を作って、腰につけていなさい。そうすれば、あなたの家族は病気にならないでしょう」と言って帰って行かれました。た。蘇民将来はびっくりして教えられたとおりにして行きました。しばらくすると、本当に悪い病気がはやりだして弟の「巨旦将来」を始め村中のひとがたおれてしまいました。でも、蘇民将来とその家族だけは神様の教えのとおりにしていたので、その後も元気に過ごしたそうです。
その後、このことがうわさとなって、夏の暑いときでも病気にならず、元気に一年を過ごせるようにと、茅（かや）で輪を作ってこれをつくぐり、帰るときには、「かや」の輪を持ち帰り、玄関に掛けておく、という風習となったそうです。

釈日本記 備後風土記より

茅の輪のくぐり方



- 一、先ず神社に向かって、輪の手前に立ち、一拝。
- 一、次ぎに心静かに願いを込めながら、輪をくぐり、左に回り、元の位置に着く。
- 一、一拝して、同じく手前から輪をくぐり、右手に回り、元の位置に着く。
- 一、輪に向かい、再度一拝し、輪をくぐり、左手に回り元の位置に着く。
- 最後に、輪を通し神社に向かい「三拝二拍手一拝」。

「人形」について

- 一、まず、人形に干支・年齢・氏名 等をご記入下さい。
- 一、次にその人形を手に持ち、「お願い事」を込めながら身体をなでてください。又、具合の悪い所などがある場合は、その部分をさすりながら「人形」に移るようにご祈念して下さい。
- 一、最後にその人形に三度、心をこめて大きく息を吹き掛けて下さい。

◎お持ち頂きました人形は、御神前にて、官司が一体ずつご祈念致します。

人形のご祈念料は、一家族 『二千元以上』のお気持ち

「ご案内致しました「封筒」に「ご代表者名等」をご記入の上「人形」と共に同封し、御崎宮 受付にお渡し頂くか、賽銭箱内に入れて下さい。

御崎宮では「茅の輪くぐりの神事」にあわせて、日頃から積み重りがちな心の罪・穢れ又、病氣・厄災を人形に移し、これを川に流して災厄を免れようと云う「大祓のおまつり」を執り行います。（当神社では、お焚き上げいたします）これは、「かたしろ」「なでもの」とも呼ばれる紙の人形で古くより禊（みそぎ）や祓に使っていたものでもあります。

※「人形」は、お一人につき「一枚」御利用下さい。（5枚在中）

※「人形」のご祈念は「八月中」受付（出来れば夏祭当日までにご持参下さい）

不在の時は、神社正面の「賽銭箱の中」にお入れ下さい。

人形（記入例）

見本

ご住所（任意）

※必須「ふりがな」

ご氏名

干支・年齢・性別（任意）